

▶ 仁尾竜まつり(水あぶせ)(8月第一金、土曜日)

(三豊市)

■ 8月第一金、土曜日 三豊市旧仁尾町



その昔、干ばつの年に、雨乞い行者として知られる和蔵(わぞう)という人に、村人が祈禱を頼んだところ、昔から雨を呼ぶと信じられていた竜を作って海に流せばよいという答えが返ってきました。そこで村人は、わらで大きな竜を作り村内を練り歩き、沿道の人々が貴重な水をかけ、海へ流したところ、念願の雨が降りました。

それ以来、仁尾では大干ばつの時にわらで竜を作ってきたと伝えられています。「そーれ、竜に水あぶせ」のかけ声とともに始まる伝統行事で、青竹などで胴体を作り、わらやなわで肉付けした長さ約40M、重さ約3tの巨大な竜を大勢の人がかっいで町内を練り歩くなか、見物人が手桶やバケツで、その竜に願いを込めて水を浴びせます。

また町内外の20数連、約1,200人が参加する総踊りや、竜翔太鼓など、現在では華やかな祭典がくり広げられています。このわらの竜は、香川用水記念公園に展示されています。

参照:伝説「雨乞いの竜」